

隨泉寺寺報

平成19年(2007年) 9月号 第445号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

秋季彼岸会法座

講師 善立寺住職 松林 行円師

講題 「やっぱり他力」

『あはれしれと われをすすむる 夜はなれや
松の嵐も 虫のなくねも』(玉葉615) 「明恵上人集」

【通釈】心なき我が身にも、もののあわれを知れと、その気にさせる
ような夜ではないか。松を吹く嵐も、虫の鳴く声も。

『山でらに 秋のあかつき 寝ざめして
虫とともにぞ なきあかしつる』(明恵上人集)

【通訳】山寺で秋の朝早く目が覚めて、虫の声とともに、空が明るくなる
までずっと泣き続けていた。

暑かった夏もようやく涼しくなってきました。虫の声も日に日に大きく聞こ
える頃になりました。リーンリーンと無く声を聞いていると何か物寂しく憂
いを含んでいるようです。暑さ寒さも彼岸までといわれるように一番気候の
いいときです。このときこそ自分の生きる道を考えて見ましょう。

9月の法座予定

- 9月 9日……………掃除 井原
- 9月14日昼席午後1時より……………秋季彼岸会法座
- 9月14日夜席午後7時より……………出張法座 井原集会所
- 9月15日朝席午前10時より……………主婦の集い おとき
- 9月15日昼席午後1時より……………秋季彼岸会法座
- 9月19日午前9時より……………灯茶会準備
- 9月23日午後19時半より……………灯茶会
- 10月 2日午後6時より……………門信徒会本部役員会

☆研修旅行

10月29日(月)に研修旅行に行きます。

なかなか日程が決まらなかったのですが、山口県の金子みすず記念館に行くことにしました。
山口の明栄寺と遍照寺にも行きます。金子みすずさんは有名な童謡詩人です。同時に感性豊
かな念仏者だったようです。

日の光

おてんと様のお使いが そろって空をたちました。
みちで出会ったみなみ風、(何しに、どこへ。)とききました。
ひとりは答えていいました。(この「明るさ」を地にまくの、
みんながお仕事できるよう。)
ひとりはさもさもうれしそう。
(わたしはお花をさかせるの、世界をたのしくするために。)
ひとりはやさしく、おとなしく、
(わたしはきよいたましいの、のぼるそり橋かけるのよ。)
のこったひとりはさみしそう。
(わたしは「かげ」をつくるため、やっぱり一緒にまいります。)

何という、やさしくて、さびしい詩だろう。(わたしは「かげ」をつくるため、やっぱり
一緒にまいります。)に、私は心を引かれます。そして、彼女こそ本物の詩人だと思います。



☆灯茶会9月23日(日)午後7時半～

今年も9月23日午後7時半から灯茶会を行います。去年は本堂の裏の竹を切っていただき、
竹の灯籠を100個作って境内に火を灯しました。今年も去年以上の灯籠を作りたいと思っ
ています。山門からの灯りの列はなかなか素晴らしいもので、本堂がうっすら浮かび幻想的
です。今年ちょうど日曜日になるので誘い合わせて参加してください。又、虫の声も盛んで
ゆっくりと虫の声に耳を澄ますというの、貴重な時間だと思います。

☆ 灯茶会の準備を9月19日午前9時より行います。裏山の竹を切っ
て灯籠を作りたいと思います。お手伝いができる方はよろしく願いい
たします。

☆御礼

永代経懇志	金	拾萬円	宮内 芳明殿	故	宮内 美富子様	特別永代経志として
永代経懇志	金	拾萬円	川岡 靖枝殿	故	川岡 勇壮様	特別永代経志として
永代経懇志	金	拾萬円	南井 恒則殿	故	南井 昌子様	特別永代経志として

☆御礼

門信徒会へ 金 一封 川岡 殿 故 川岡 勇壮様 香典返しとして

☆主婦の集い 9月15日(土)午前10時～

汚れつづけずにはおれない私を 知らせていただく

周梨馨特（しゅりはんどく）

お内陣の

お花を立て替え お掃除 させていただく

特別もの覚えがわるく 兄さんからも 見放されたという

周梨馨特（しゅりはんどく）

「塵を払おう 垢をとろう」「塵を払おう 垢をとろう」

お釈迦さまから教わったとおり ひたすら お掃除を続けたという

周梨馨特（しゅりはんどく）

続けている中に「ゴミや汚れはきれいにしたと思ったすぐ後から

できてくる 油断のならないものだ」と 気がついたという

周梨馨特（しゅりはんどく）

「ゴミや汚れはありそうにもないところにもある

油断のならないものだ」と 気がついたという

周梨馨特（しゅりはんどく）

油断なく 懸命に お掃除にうち込んでいるうちに

心の汚れに気がつくようになったという

心の汚れもきれいにしたと思った瞬間から 汚れ

汚れてなどいないと思っいるときにも汚れている

油断のならないものだ」と気がついたという

周梨馨特（しゅりはんどく）

なぜか その周梨馨特のことが 憶われてならない

お内陣の 掃除 何年生きさせていただいても

汚れつづけずにはおれない私を知らせていただく

お内陣の 掃除

周梨馨特（しゅりはんどく）

（注編集部注＝周梨馨特（チエーダパンタカ）＝ものおぼえが悪く、お釈迦さまのお弟子になれなかった周梨馨特は、お釈迦さまからお寺の掃除を命ぜられ、毎日毎日、お寺の掃除にはげむうち、自分の心の中を掃除することに気がきます。これによって、お弟子になることを許可された馨特は、熱心にお釈迦さまの教えを聞いて、立派な仏弟子になったと伝えられています）



『タイマグラのばあちゃん』という

映画のビデオを見ました。久しぶりに本物に出会ったという
気がします。

岩手県のほぼ真ん中に位置する早池峰山。その麓に戦後、“タイマグラ”と呼ばれる小さな開拓地がつくられ10軒あまりの農家が入植した。しかし、東京オリンピックの頃までにはほとんどの家が去り、残ったのは向田久米蔵さん、マサヨさんの夫婦二人だけになった。それから20年ほど経った昭和63年、大阪の若者が越してきて久々にお隣さんができ、年の瀬にはタイマグラにとうとう電気がひかれた。「極楽だあ」が口ぐせのマサヨばんちゃんはそんなタイマグラで、畑を耕し、

“お農神さま”へのお祈りする素朴でありながら心豊かな毎日を送っていた。《自分のことを「タイマグラ」と言うばあちゃんは、いつも満ち足りた笑顔をたやませません。「極楽だあ・・・」と笑いながらお茶を飲んでいます。まわりから見れば不便なだけの山奥なのに、何がそんなに幸せなのでしょう。

水道はないので、湧き水や沢の水を使っています。電気は昭和の最後になってようやくひかれ、ずっとランプの灯りが頼りでした。近くの人里からは遠く離れており、長らく一軒きりでした。

私たちが当たり前と思っているものがほとんどない暮らしなのです。しかし、ばあちゃんの日々は、木々や風が発する自然の声に満ちあふれています。春の雪がとけて山の斜面に「種まきこ」の形があらわれたら畑に出ます。コブシの花の咲き具合が豊作か凶作かを知らせてくれます。カッコウの鳴き声を合図に種まきを始め、お農神さまへのお祈りを欠かしません。秋には収穫をお供えして実りを感謝し、冬の寒さが来たら畑で育てた豆から豆腐や味噌をこしらえます。

ばあちゃんの暮らしには便利な「モノ」はなくても、さまざまな生命たちと一緒に生きているという安心と喜びがありました。かわることなく春夏秋冬をきざむ大自然がばあちゃんの笑顔を生み、暮らしを豊かに彩っているのです。

ばあちゃんの四季のいとなみは毎年かわることがありません。そのかわらない暮らしの中に、とても懐かしく大切なものがあつたような気がしています。どんなに科学が進歩してもかわらないもの。どんなに暮らしが便利になっても人間にとって他にかかわることのできないもの……。身体を動かして働く喜び、自然に抱かれる喜び、季節を感じる喜び。

ばあちゃんが守ってきたのは「人としてかわってはいけないもの」であつたように思われるのです。」 監督 - 澄川嘉彦氏談 -

監督 澄川嘉彦氏は長者原西の福永敬子さんのおにいさんです。東大を出てNHKの仙台放送局に勤務しておられたときに『タイマグラ』のおばあちゃんにであつて製作されました。